

大本山永平寺拠点計画

目次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	5
3. 基本的な方針	6
3-1. 現状分析	
3-1-1. 主要な文化資源	
3-1-2. 来訪者の動向	8
3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較	11
3-2. 課題	12
3-3. 文化観光拠点としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	13
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	15
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	16
4. 目標	17
5. 目標の達成状況の評価	21
6. 文化資源保存活用施設	22
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	
6-1-1. 現状の取組み	
6-1-2. 本計画における取組	23
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	24
6-2-1. 現状の取組み	
6-2-2. 本計画における取組	
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	25
6-3-1. 現状の取組み	
6-3-2. 本計画における取組	26
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	28
7-1. 事業の内容	
7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業	
7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業	30
7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	31
7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業	32
7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	33
7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	34
7-2. 特別の措置に関する事項	35
7-2-1. 必要とする特例措置の内容	
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	36
8. 計画期間	39

大本山永平寺拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	大本山永平寺	所在地	福井県吉田郡永平寺町志比
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	宗教法人 大本山永平寺	所在地	福井県吉田郡永平寺町志比
	代表者	監院 小林 昌道		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	福井県	所在地	福井県福井市大手 3-17-1
	代表者	知事 杉本 達治		
	地方公共 団体内部 の役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者 [主担当] 交流文化部文化・スポーツ局文化課(文化振興)、交流文化部観光誘客課 (観光振興、インバウンド)、新幹線開業課(プロモーション)		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	公益社団法人 福井県観光連盟	所在地	福井県福井市宝永 2-4-10
	代表者	会長 山田 義彦		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	株式会社輝峰	所在地	福井県吉田郡永平寺町志比
	代表者	代表取締役 石田 純道		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	禅の里まちづくり協議会	所在地	福井県吉田郡永平寺町志比
	代表者	会長 山口 権悟		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

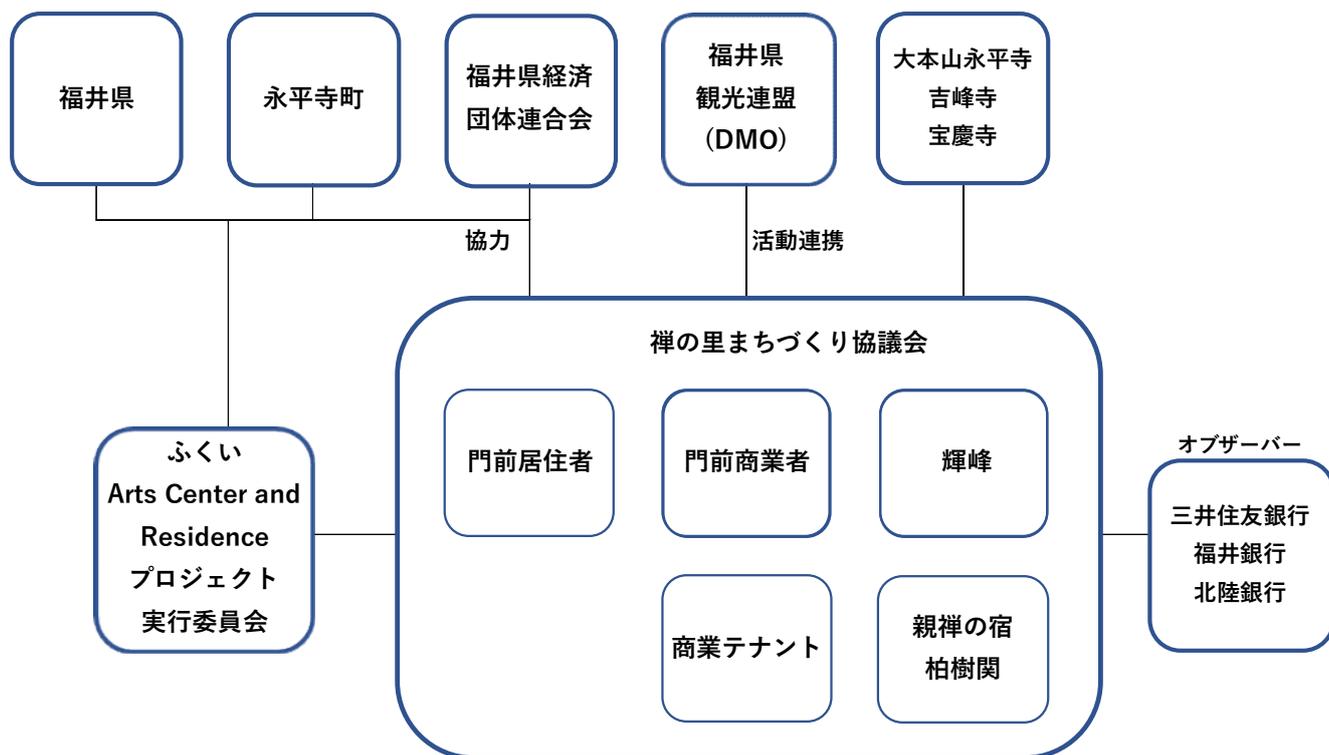
同申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	ふくいArts Center and Residence プロジェクト 実行委員会	所在地	福井県福井市町屋((株)クラフトパートナーズ内)
	代表者	会長 西山 和夫		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

大本山永平寺を核とし、株式会社輝峰、門前商業者、門前居住者等が会員の禅の里まちづくり協議会を6月に発足させ、永平寺門前を含めた文化観光拠点機能強化を実行・推進する体制を構築する。

禅の里まちづくり協議会に福井県、永平寺町、福井県経済団体連合会が協力すると共に、福井県観光連盟(DMO)が活動連携する。三井住友銀行・福井銀行・北陸銀行は、第二期門前再生事業における「禅文化」と親和性のあるテナント誘致や事業計画の支援の為、オブザーバーとして参加する。

また、禅の里まちづくり協議会は禅の里(大本山永平寺及び門前)等で開催する禅とアートが融合したイベントの開催について、ふくいArts Center and Residence プロジェクト実行委員会と連携・協力する。



3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

■大本山永平寺の概要

道元禅師によって1244年に開創された永平寺は禅の根本道場である。

国宝の指定を受けている道元禅師御真筆の「普勸坐禅儀」は、「普く勧められた坐禅の要諦」を示したものである。木造建築伽藍群として国の重要文化財に認定された木造建造物の中でも、特に七堂伽藍と総称される七棟の建物は、禅宗の伽藍配置の基本を忠実に踏襲しており、この七堂伽藍の配置に禅的生活の何たるかが表現されている。七堂伽藍を構成する建物配置や各建物の機能と役割が、坐禅を中心に展開する日々の生活の理想的有り様を表現している。

また、永平寺は、昨今の世界的な禅ブームにより禅の聖地としての存在価値も高まっている。

伽藍は今日まで火災・豪雪等による増改築を繰り返し、また、日本の人口増加に伴い昭和40年代後半から平成4年のバブル期においては年間約110万～150万人の団体の観光客が訪れ、それに伴う宿坊整備等を行い建物数70余棟の大伽藍となった。普勸坐禅儀をはじめ、文書や仏像、梵鐘等の文化財を収蔵・展示する瑠璃聖宝閣(宝物館)も平成14年に新築し一般公開を行っている。

しかし、現在は建物の耐震改修・設備改修の問題を抱えている。更に、昭和40年代中頃から平成22年頃までは毎年100人以上の修行僧が上山してきたが、昨今は少子化により修行僧の減少も顕著となりつつあり、修行僧の本来の修行を優先させる為、参拝者への説明等の対応を見直さざるを得ない。

■門前の状況

門前も観光客の増加に合わせて昭和30年代から店舗や宿泊施設が整備されてきたが、家族経営による経営基盤の脆弱性やバブル崩壊以降の団体観光客の減少による収入減で、建物の機能更新及び、サービス向上や商品開発等の魅力づくりが滞っている。

これらの課題を解決し将来に向けて大本山永平寺を護持し、門前も永平寺と一体となった凜とした佇まいになるように、平成22年から大本山永平寺では「禅の里事業」と位置付け、境内環境整備と門前再生事業を開始し、境内環境整備事業や安心・安全事業として境内の五代杉並木の倒木対策や防災設備改修を行うとともに、門前再構築プロジェクトとして大本山永平寺所有の1,600年代の古地図を基に平成30年に福井県による永平寺川の石積み護岸改修、永平寺町による旧参道の石畳化、電線地中化、観光案内所とバス停の整備が完成し、平成31年には大本山永平寺による宿泊施設「親禅の宿柏樹閣」がオープンした。

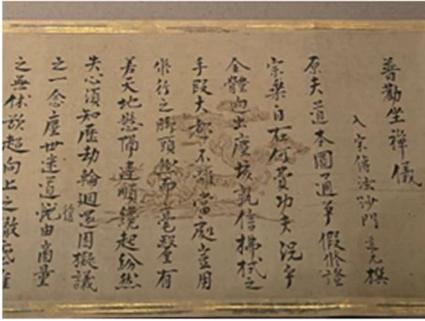
今後は、令和6年春に予定されている北陸新幹線福井敦賀延伸開業に合わせて第二期門前再生事業として、企業版ふるさと納税制度を活用して旧参道対岸に店舗と宿泊施設の整備を行うと共に、令和8年の中部縦貫道開通予定の機会等を捉え、順次、永平寺境内と門前の環境整備を続けていく。

■大本山永平寺の主な文化財

・国宝

普勸坐禅儀

瑠璃聖宝閣展示室



・重要文化財

高祖嗣書 1幅、明全戒牒 1巻、正法眼蔵仏性第三 1冊、後円融院宸翰 1幅
梵鐘



七堂伽藍(境内の建物の内、仏殿・法堂・山門・中雀門・僧堂・大庫院・大光明蔵・監院寮・廻廊5棟・承陽殿本殿及び拝殿・承陽門・経蔵・松平家廟所門・舍利殿及び祠堂殿、勅使門の19棟)



・福井県指定有形文化財

絹本著色三帝釈天像、絹本著色永平寺歴代祖師像 9幅

3-1-2. 来訪客の動向

■大本山永平寺の観光客の動向

昭和 40 年代後半から平成 4 年のバブル期においては年間約 110 万～150 万人の観光客が訪れていたが、バブル崩壊後の不況や団体旅行の減少により平成 10～14 年頃には 70 万人台となり、その後は 50～60 万人で推移していたが、コロナ禍により令和 2 年が約 21 万人、令和 3 年は約 20 万人と更に減少している。

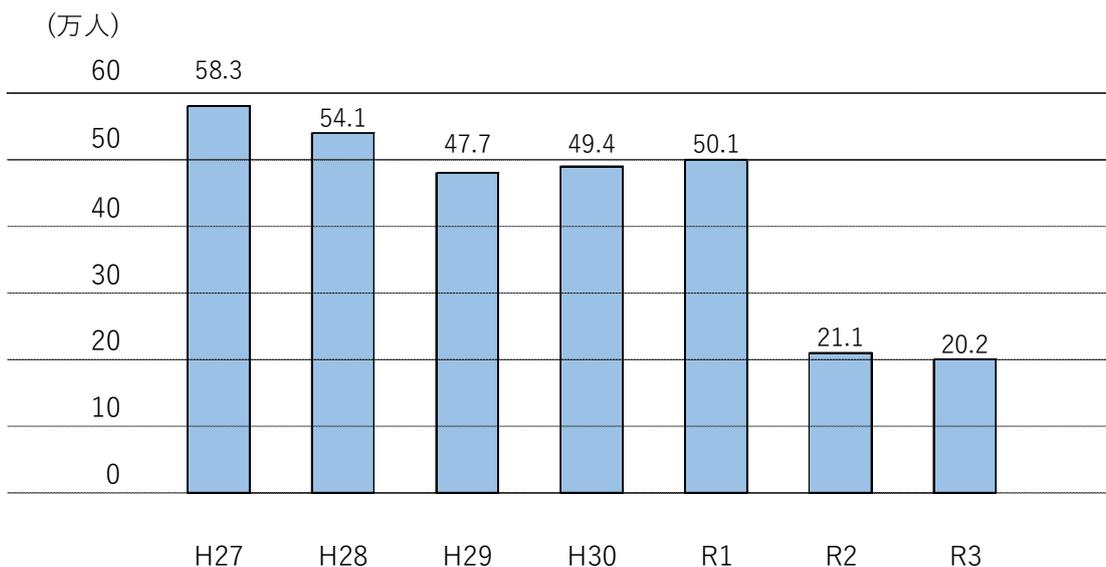
来訪地域は福井県内が約 30%、関西地区が約 20%、中京地区が約 15%となっている。

年齢別では 30～50 歳代が約 80%であり、男性:女性の比率は約 1:2 となっている。

[2022 年 福井県観光連盟アンケート調査より]

外国人では台湾が一番多く、中国・韓国と合わせると約 60%がアジア圏からの来訪となっている。

[永平寺参拝者数]



<大本山永平寺統計 令和4年>

[大本山永平寺で配布した外国語用参拝の葉 配布数]

平成 30 年	英語版	約 5,900 部	中国語	約 1,500 部	台湾語	約 7,000 部	韓国語	約 200 部
令和元年	英語版	約 6,500 部	中国語	約 1,900 部	台湾語	約 6,800 部	韓国語	約 200 部
	合計	約 15,000 部						

<大本山永平寺統計 令和2年>

■福井県の観光客の動向

東尋坊	(坂井市)	1,354 千人
恐竜博物館・かつやま恐竜の森	(勝山市)	1,128 千人
一乗谷朝倉氏遺跡	(福井市)	722 千人
氣比神宮	(敦賀市)	721 千人
大本山永平寺	(永平寺町)	492 千人
平泉寺白山神社	(勝山市)	228 千人
養浩館庭園	(福井市)	63 千人

<福井市観光振興計画 令和2年より引用>

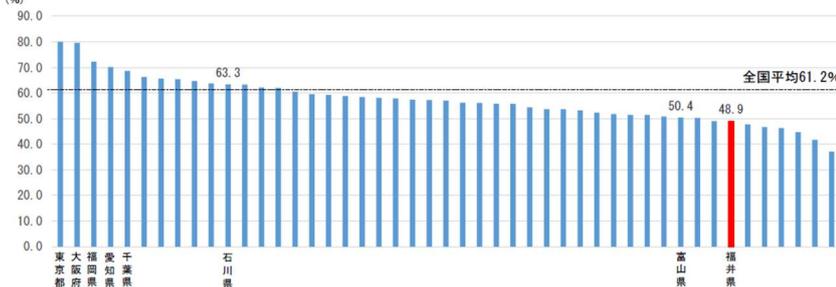
・大本山永平寺は、知名度はあるものの他の福井県内の観光施設と比較しても観光客数が多くはない。

- ・福井県の観光入込数、観光消費額は平成27年の北陸新幹線金沢開業により約50%増加した。しかし、日帰り客の割合が多く宿泊客が少ない為、宿泊施設の稼働率が低い。

【本県の観光客入込数（実人数）と観光消費額の推移】



【宿泊施設全体の客室稼働率】

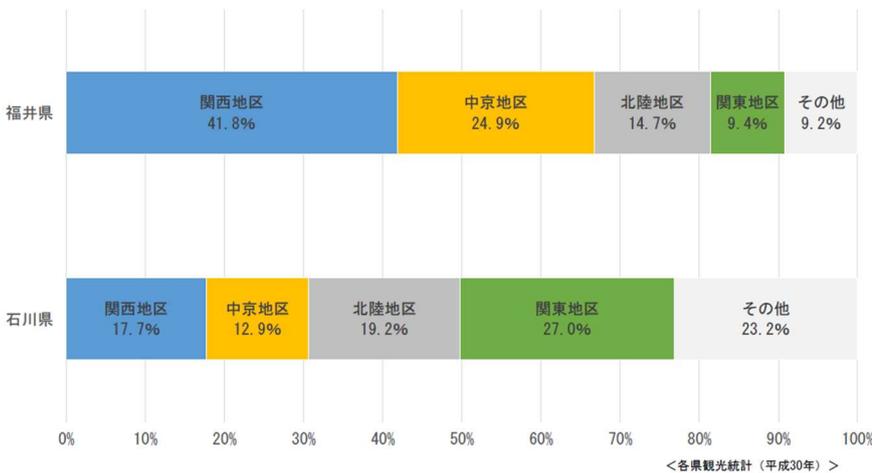


【宿泊施設タイプ別施設数・客室稼働率（施設数/稼働率）】

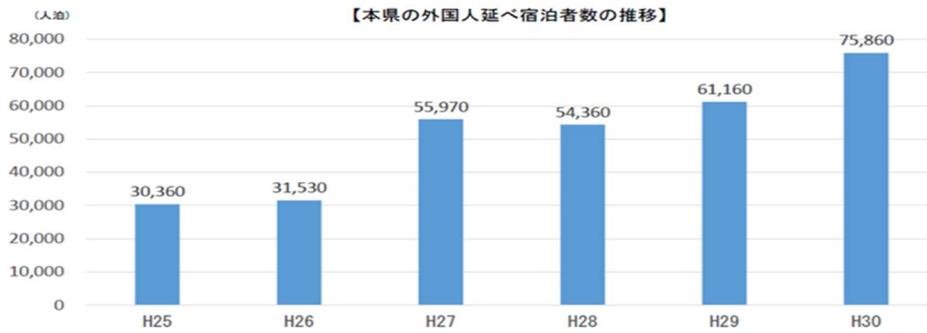
	全体	うち、旅館	うち、リゾートホテル	うち、ビジネスホテル	うち、シティホテル
福井県	840/48.9%	500/31.9%	10/56.1%	70/78.5%	10/66.4%
石川県	670/63.3%	210/49.4%	10/55.1%	120/74.0%	10/78.6%
富山県	415/50.4%	240/29.2%	20/52.7%	60/62.3%	10/69.4%
稼働率の全国平均	61.2%	38.8%	58.3%	75.5%	80.2%

- ・県外客の発地別割合は、関西地区、中京地区の割合が高く関東地区の割合が低い。2024年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業により、石川県と同様に関東地区の割合が増えると予測する。

【県外客の発地別割合】



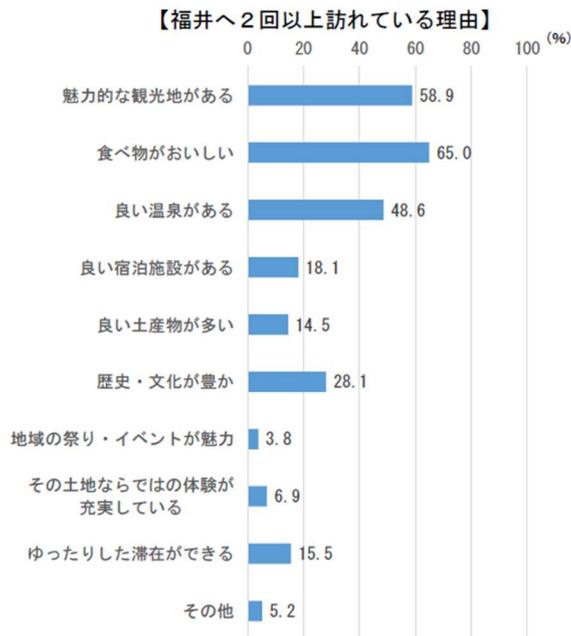
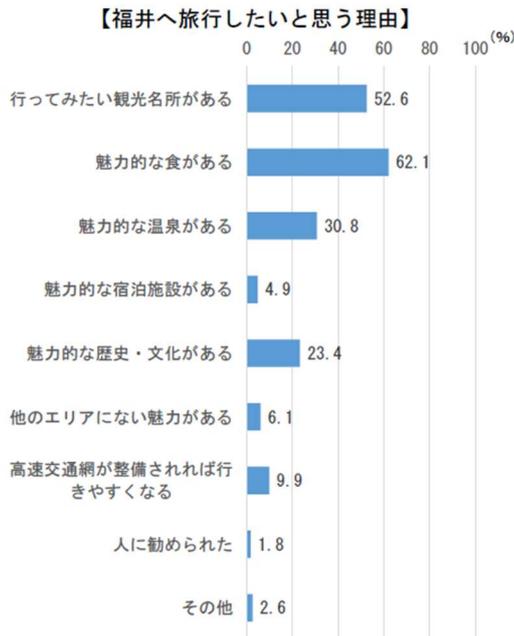
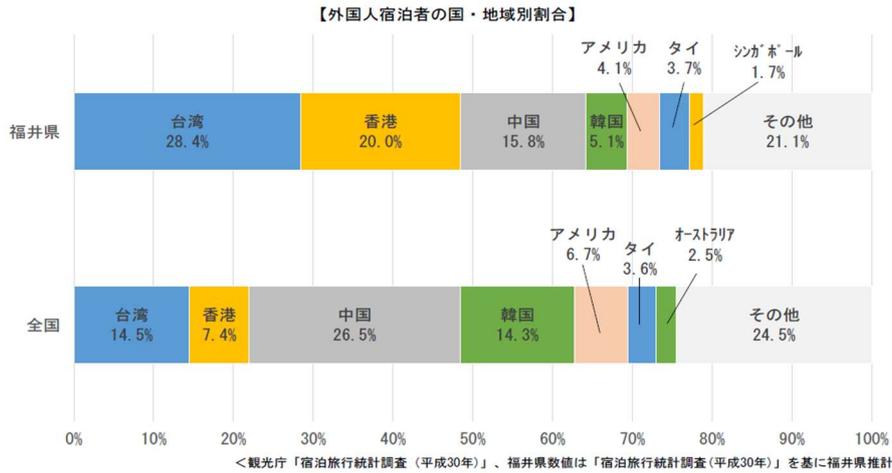
- ・外国人延べ宿泊者数は、平成27年の北陸新幹線金沢開業以降、大幅に増加したが他県と比較するとまだまだ絶対数が少ない。（平成30年は、全国46位）
また、全国平均と比較しても福井県は欧米系の来訪が少ない。
令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業による関東地区とのアクセス向上及び、成田空港、羽田空港とのアクセスも向上することから、現在の小松空港（石川県小松市）からのインバウンドを含め外国人の割合が増えると予測する。
※成田空港、羽田空港で出入国者数が約45%（2018年 国土交通政策研究所 資料より）



【他県との比較】 (人泊)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
石川県	326,380	348,290	517,430	623,460	777,240	973,950
富山県	136,290	142,070	207,790	222,270	287,720	306,200

<観光庁「宿泊旅行統計調査」>



<福井県「地域ブランドベンチマーク調査（平成30年）」>

くふくい観光ビジョン 令和2年より引用

【まとめ】

- ・永平寺に来ている観光客は、福井県の動向と同じ関西地区・中京地区から多く訪れており、年齢層も30～50歳代が中心で女性の割合が多い。外国人は台湾・中国から約60%訪れており欧米系が少ない。
- ・福井への来訪の理由としては、「行ってみたい観光地がある」、「食べ物がおいしい」、「魅力的な歴史・文化がある」、「ゆったりした滞在ができる」の割合が高い。
- ・「ZEN」のコンセプトに魅力を感じる外国人の割合は、欧米90.2% アジア87.3%となっている。（平成27年福井県調査）

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

大本山永平寺の類似の文化資源保存活用施設としては、京都からの地理的状況や文化資源を理解することが難しい点等の共通点から総本山金剛峯寺とする。

[相違点]

- ・高野山の観光客数はコロナ禍前で約150万人であるが、永平寺では約50～60万人である。
- ・高野山は既に国際的な認知度も高く、外国人の宿泊客数はコロナ禍前の平成26年の5.6万人から令和元年には10万人を超え、毎年増加傾向にあった。また、国籍別ではフランスを筆頭に欧州が6割以上を占めている。永平寺は禅の聖地という知名度はあるが、まだまだ外国人の来訪が少ない。
- ・高野山の117の寺院のうち50が宿坊寺院となっており一大宿坊エリアを構成しているが、永平寺では永平寺内の宿坊と門前の「親禅の宿柏樹関」他1軒があるだけで、宿泊施設の質と量が不足している。
- ・高野山は奥の院、金剛峯寺、壇上伽藍と文化資源が広範囲に分散しているが、永平寺は七堂伽藍に集中しており、深く理解するには効率的である。
- ・高野山をはじめ、東大寺、日光東照宮等の日本の主要な文化資源を保有する地域には、文化情報の提供による理解促進や、周遊時に休息できる場(カフェ等)を複合的に提供しているが、永平寺には瑠璃聖宝閣(宝物館)はあるが、観光時の休憩場所(カフェ等)が少ない。

[類似点]

- ・高野山は約1,200年間、永平寺は約780年間と長きに渡り現在まで独自の文化と周辺の自然環境を一体として護り続けてきた世界的にも唯一無二の存在である。
- ・月別の観光客数は春から秋の時期に多くなる傾向があるが、12月～2月は冬の厳しさを敬遠する気持ちや、道路状況の悪化による主要交通手段の自動車での来訪が困難となる為、来訪者が大きく減少する。
- ・観光客の年齢層は、中高年層が多く若年層が少ない。
- ・国内の観光客数は伸び悩み、殆どが短時間の滞在で宿泊客が少ない。

[永平寺の強み]

- ・約780年間、「禅文化」を守り続けてきた稀有な存在であり、今日では禅の聖地としての存在価値も高まっている。
- ・永平寺は志比の谷に佇んでおり、観光客は禅の道場の凜とした雰囲気を感じる事ができる。
- ・永平寺には雲水含め僧侶が約150人おり、観光客は身近に修行している姿に接する事ができる。

[永平寺の弱み]

- ・「禅文化」は難しく、直ぐには理解が得られない。
- ・永平寺の伽藍は山の斜面に建っており高低差があるが、休憩する場所が少ない。
- ・観光客の滞在は短時間であり宿泊客も少ない。冬季間は観光客が大きく減少する。

3-2. 課題

現状を踏まえ、大本山永平寺及び門前の課題を下記の様に整理した。

課題1 表面のみ短時間の観光に終わってしまい、「禅文化」の魅力を伝えきれていない

禅の里は長い歴史と創建当時から変わらない日々の営みと、文化資源である国宝・重要文化財、周囲の自然環境をも含め全てが禅の世界を表しているが、観光客は永平寺を表面的に巡り、短時間で帰ってしまう。

宿泊客には対応しているが、一般の観光客には「禅文化」について興味を持ってもらう対応が十分にできていない。

課題2 禅の里における国内外の観光客に対する受入環境が不十分

永平寺では観光客に葉を配布し、参拝の前に修行僧が説明を行っているが、短時間での説明の為、本来の永平寺が目指している説明が十分に出来ていない。外国人に対しては更に出来ていない状況である。門前についても建物の機能更新及び、サービス向上が滞っている。また、禅の里は山の斜面に位置し高低差が大きく、ゆっくりと休憩したり、食事ができる滞在場所が少ない。更に、永平寺は「禅文化」に特化した存在であるから、長期滞在を促す為には、「禅文化」以外の特別な体験の提供も必要となる。

課題3 豊富な文化観光資源が点在しているものの、十分に周遊されていない

禅の里周辺には一時間圏内に経済産業大臣指定伝統的工芸品である越前和紙・越前打ち刃物・越前漆器・越前焼や世界的なシユアを誇る鯖江のめがね等、日本を代表する産地及び、日本最大の戦国城下町跡・特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡、江戸時代以前に築城された現存十二天守で唯一北陸地方に残る重要文化財の丸岡城があるが、「禅文化」との関係や歴史的なつながりを伝えきれていない為、十分に周遊されていない。

課題4 日本在住およびインバウンド観光客への多言語対応が不足

永平寺では英語・中国語・台湾語・韓国語の葉を用意し、建物の説明板と案内サインに英語を併記しているが充分とは言えない。また、英語が話せる僧侶がいる時は、外国人に対して特別に対応している。現在は外国人の来訪が少ないが、今後、北陸新幹線福井敦賀延伸開業による関東地区とのアクセス向上や、成田空港、羽田空港とのアクセスも向上することから、現在の小松空港(石川県小松市)からのインバウンドを含め外国人の来訪が増えると予測する為、対応が必要となる。

これらの課題を解決することで、「禅文化」の理解促進や禅の里への来訪の満足度向上に貢献し、関西地区、中京地区に加え関東地区の観光客、インバウンド、特に「禅文化」に興味を持っている人達に来訪してもらい、滞在時間の延長や宿泊による観光消費に繋げ、文化観光の活性化を図っていく。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

■基本的な方向性

禪の里の魅力は、禪の里の環境に身を置いてじっくりと五感で自己を感じるところにある。しかしながら現状は、来訪者が本来の永平寺の良さを理解する前に表面のみの短時間の滞在で終わってしまい、従ってリピートする意義を感じる処まで達しないというところにある。

このような課題認識の下、禪の里の文化資源の魅力、価値を深く理解してもらう為のストーリーを「禪の里文化観光ストーリー」として造成し、ストーリーに基づく施策を企画し魅力伝達を行っていく。

また、禪の里周辺の福井の伝統工芸品の産地等と連携し滞在・宿泊への動機づけを行い、禪の里及び、周辺産地等での観光消費に繋げる。

■取組み強化事項-1 魅力ストーリーの造成と交流プログラム開発 (課題1、課題2 関連)

・「禪の里文化観光ストーリー・プログラム」の造成

「禪文化」について理解が浅い一般の観光客から、徐々に興味を持ちリピートする中級者に、そして深く理解する為にリピートし長期滞在する上級者へと階段を上る様に「禪文化」に興味を持って貰えるストーリーを創り、そのストーリーに基づき各段階における知識としての教育プログラムと日常での体験プログラムを組合せていく。これに合わせて、各事業においては事業継続の為のマネタイズを図っていく。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。
- ・段階的に「禪文化」を深く理解したいと思うリピーター及び、知識富裕層等。

・交流法話会の実施

既に永平寺では朝課(早朝の法要)に参列する一般観光客・宿泊者に対して朝課の前に僧侶が分かり易い法話を行っている。段階的に「禪文化」を深く理解したいと思うリピーター及び、知識富裕層等に対して、知識度合や関心度合に応じて適格に法話の内容を変更する。これにより、徐々に理解を深めてもらいリピートしてもらう事を目指す。

[ターゲット]

- ・段階的に「禪文化」を深く理解したいと思うリピーター及び、知識富裕層等。

・宿泊施設へのコンテンツ提供

親禪の宿柏樹関及び、第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設に滞在中、「禪文化」について何時でも学べるように映像コンテンツを提供する。宿泊者に、雲水の修行の疑似体験が出来る永平寺で毎日行われる朝課(早朝の法要)参列・参禅・写経と合わせ、リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリット型の体験を提供し、「禪文化」の理解を深めてもらう。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。

・禪コンシェルジェの育成

現在、永平寺では修行僧が参拝者に永平寺の成立ちや参拝の仕方を説明している。また、親禪の宿柏樹関では従業員教育として永平寺についての研修を行っているが、禪の里全体としては共通の教育プログラムがなく、共通して観光客に説明できていない。

観光客が「禪文化」に触れ自己と向き合うキッカケとして、僧侶や門前の人々と接することによる「気付き」がある。そのためには説明者に正しい知識を持ってもらい、分かり易く伝える教育が必要であり、教育プログラムの開発と認定制度を整備し育成を行う。認定制度に合格した者を「禪コンシェルジ

エ」と位置づけ、プライドや「やりがい」を持って観光客と接して貰えるようにする。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。

■取組み強化事項-2 理解を促すコンテンツ制作と伝達方法(課題1、課題2、課題4 関連)

・映像コンテンツの制作及び、配信

現在の情報社会の中において正しい「禅文化」を伝える為に、永平寺自らが映像コンテンツを制作する事が重要と考える。

観光客が興味のある処から「禅文化」を学ぶことができるように、テーマ毎に約20~30分のドキュメンタリーを制作する。また、親禅の宿柏樹関及び、第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設への配信と共に、永平寺の瑠璃聖宝閣(宝物館)での文化財についての放映や七堂伽藍前の適所で放映し「禅文化」を分かり易く理解できるようにする。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。

・ICTを活用した永平寺山内の周遊促進

山内各地、建物の文化資源案内看板にQRコードを設置し、「禅文化」の知識を深めて貰えるように文化資源の詳細情報を観光客のスマホにWeb連動で動画配信する。

[ターゲット]

- ・段階的に「禅文化」を深く理解したいと思うリピーター及び、知識富裕層等。

・案内サインによる周遊促進

禅の里には色々な看板・サインがあり分かり難いので、看板・サインの機能を整理し、景観および環境に配慮しながら、分かり易くする。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。

■取組み強化事項-3 多言語対応(課題4 関連)

・映像コンテンツの多言語化

観光庁 How to 多言語解説文整備に基づき、映像コンテンツのナレーションを英語・中国語・韓国語に多言語化して、外国人に対しても「禅文化」を正しく分かり易く伝える。

また、海外からのWebアクセスに対して、現在ある大本山永平寺のホームページと、福井県公式観光サイトのふくいドットコム、永平寺町公式観光サイトのZENTABI Navi とのリンク等も図り、観光客の来訪の動機づけを行い、インバウンド対策を強化する。

・山内各地、建物の文化資源案内看板にQRコードを設置し、文化資源の詳細情報を観光客のスマホにWeb連動で動画配信する。説明のナレーションは、観光庁 How to 多言語解説文整備に基づき、英語、中国語、韓国語に多言語化する。

[ターゲット]

- ・日本在住及びインバウンドの回復を見据えて外国人。
- ・特に禅ブームとなっているが来訪が少ない欧米系の人達。

■取組み強化事項-4 禅の里周辺の文化観光資源との連携と飲食・物販サービス向上

(課題3、課題4 関連)

・上質な文化観光ツアーの開発の為の実証実験

禅の里周辺には一時間圏内に経済産業大臣指定伝統的工芸品である越前和紙・越前打ち刃物・越前漆器・越前焼や世界的なシユアを誇る鯖江のめがね等、日本を代表する産地及び、日本最大の戦国城下町跡・特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡、江戸時代以前に築城された現存十二天守で唯一北陸地方に残る重要文化財の丸岡城がある。「禅文化」だけでなく、福井の伝統工芸産地等との文化観光ツアー体験やアート・イベント参加ツアーを加えることで、禅の里への更なる誘客と長期滞在を促す為の実証実験を行う。

[ターゲット]

- ・日本の伝統文化に興味のある人達。
- ・アートに興味のある人達。
- ・宿泊者。

・オリジナル商品の共同開発

・禅の里では福井の工芸産地等と連携し、伝統的工芸品を活用した土産品の充実を図る。また、門前飲食店では、精進料理や福井の伝統料理をもとにオリジナル・メニューを開発する。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。
- ・日本の伝統文化・伝統料理に興味のある人達。
- ・宿泊者。

■取組み強化事項-5 アート・イベントによる地域活性化(課題1、課題3 関連)

・禅とアートが融合したイベント開催

禅とアートが融合したイベントを継続して定期的に行う。滞在アーティストと地域住民の交流を通して地域資源の再発見と磨き上げを行うと共に、観光客とアーティストの交流を通して禅文化に興味を持ってもらう。アート・イベントの情報を国内外に発信し、来訪への動機づけにつなげる。

[ターゲット]

- ・一般の観光客。
- ・アートに興味のある人達。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

- ・現状は観光客がゆっくりと文化資源の価値を感じる前に表面的な短時間での滞在で終わってしまい、従ってリピートする意義も感じないというところにある。
- ・基本方針である禅の里文化観光ストーリーに基づき、各事業を大本山永平寺、株式会社輝峰、禅の里まちづくり協議会が連携して行う事により、来訪の動機づけによる観光客の増加や、観光客に「禅文化」に興味を持って貰うことによる滞在時間の増加、宿泊へと繋げていく。また、「禅文化」だけでなく禅の里近傍の福井の伝統工芸産地、朝倉氏遺跡、丸岡城、禅とアートが融合したイベントとも連携することにより、観光客の周遊を促し、禅の里だけでなく各伝統工芸産地等における文化観光産業の更なる推進に貢献する。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

- ・観光客が「禅文化」に浸り、ゆっくり滞在して自己を見つめて貰う「価値体験型」「滞在型」の禅の里を実現し、禅の里周辺の文化観光資源や禅とアートが融合したイベントと連携し活性化することで、文化の振興と観光の振興を両立させ地域の活性化の好循環を実現する。
- ・禅の里の人々が「やりがい」とプライドを持って観光客に接し、サービスの付加価値を高めて消費単価の引き上げを目指す。また、新規の雇用に繋がるように禅の里の環境を整える。
- ・文化観光の振興により得た収益の一部は、文化財の保護や禅の里の環境整備に充てる。

4. 目標

目標①：文化観光資源の魅力度理解と満足度（課題1,2 関連、取組強化事項-1,2 関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

[考え方] 門前商店、門前宿泊施設及びツアーで文化観光資源の魅力度理解について、お客様にアンケートで5段階評価（満足 やや満足 普通 やや不満 不満）をしてもらい、「満足」の割合を把握する。

[把握方法] アンケート用紙にて回収する。多言語対応も行う。

年度	実績		目標				
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
アンケート(%)		35	38	41	44	47	50
事業1-①： 禅の里文化観光ストーリー一造成事業			ストーリー・プログラム(初級編)の造成及び、企画書作成	ストーリー・プログラム(中級編)の造成 初級編の評価・検証 企画書の改定	ストーリー・プログラム(上級編)の造成 初級・中級編の評価・検証・企画書の改定	継続 初級・中級・上級編の評価・検証・企画書の改定	継続
事業1-②： 交流法話会事業		法話会 (一般)	継続 中級編・上級編の交流 法話会の実施	継続	継続	継続	継続
事業1-③： 禅コンシェルジェ育成事業			講習プログラム立案。	テキスト作成、講習会 開催、認定試験実施。	継続	継続	継続
事業2-①： 映像コンテンツの制作 及び配信事業			映像コンテンツの企画 立案	映像コンテンツの (2本)作成及び、配信	映像コンテンツの (2本)作成及び、配信	映像コンテンツの (2本)作成及び、配信	映像コンテンツの (2本)作成及び、配信

事業5-①: ZENによる誘客促進事業			<ul style="list-style-type: none"> ・福井県公式観光ホームページ等や福井県観光連盟(DMO)独自のCRMによるファンづくり活動において、「ZEN」に関連した情報発信 ・体験プログラム予約決済プラットフォームで「ZEN」に関連した体験プログラム等の販売支援 				
------------------------	--	--	--	--	--	--	--

目標②：大本山永平寺への国内来訪者数（課題1, 2, 3 関連、取組強化事項1, 2, 4, 5 関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

[考え方] 北陸新幹線福井敦賀延伸開業後の2024年にコロナ禍前の2019年の人数に戻すことを先ずは目標とし、2022年は県民割及び、インバウンドの団体受入れがスタートしたが厳しい状況は変わらないと判断し、2023年は約77%、2024年は新幹線開業前の福井県の関東地方でのキャンペーンやJRのディステーション・キャンペーンに期待し約103%と想定する。2025年の大阪万博開催時にはインバウンドも回復していると想定し、10%ずつ増加すると想定した。

[把握方法] 永平寺通用門(入口)での人数を把握する。

年度	実績		目標				
	2019年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
国内来訪者数(千人)	486	202	-	375	500	550	600

事業1-④： 禪とアートが融合した イベント開催事業		第一回 開催	第二回開催 (アーティスト公募・ 公開制作・ワークショ ップ等)	第三回開催 (展示会、アーティスト 公募・公開制作・ワー クショップ等)	第四回開催 (展示会、アーティスト 公募・公開制作・ワー クショップ等)	第五回開催 (展示会、アーティスト 公募・公開制作・ワー クショップ等)	第六回開催 (展示会、アーティスト 公募・公開制作・ワー クショップ等)
事業2-②： 宿泊施設への映像コン テンツ提供事業		朝課参列・ 参禅体験・ 写経	朝課参列等は継続 映像コンテンツ提供シ ステム構築	朝課参列等は継続 映像コンテンツ配信開 始	継続	継続	継続
事業2-④： 上質な文化観光ツアー の開発の為の実証実験			ツアー企画	マーケティング、商品 開発(2本) ツアー販売(実証実験) アンケート調査	商品開発(2本) ツアー販売(実証実験) アンケート調査	継続	継続
事業3-① 案内サインによる周遊 促進事業		既設 看板	既設看板・サイン調査 サイン計画立案				
事業6-①： 案内サイン設置事業				サイン制作・取付	利用開始 事業3-②と連携させ る。		

目標③：大本山永平寺へのインバウンド来訪者数（課題4関連、取組強化事項2,3関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

[考え方]北陸新幹線福井敦賀延伸開業後の2025年にコロナ禍前の2019年の人数に戻すことを先ずは目標とし、2022年はインバウンドの団体受入れがスタートしたが厳しい状況は変わらず、2023,2024年から徐々に回復すると判断した。
インバウンドについては、2026~28年は年間約10%ずつ増加し、大本山永平寺で大法要が行われる2029年は約25%、2030~31年は年間約10%ずつ増加し2019年度比2倍の3万人を目指す。

[把握方法]永平寺通用門(入口)での人数を把握する。

年度	実績		目標				
	2019年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
インバウンド(人)	15,000	-	-	2,500	7,500	15,000	16,500
事業2-③: 映像コンテンツの多言語化事業				映像コンテンツ(2本) 多言語化作業及び、配信	映像コンテンツ(2本) 多言語化作業及び、配信	映像コンテンツ(2本) 多言語化作業及び、配信	映像コンテンツ(2本) 多言語化作業及び、配信
事業3-②: ICTを活用した永平寺山内の周遊促進事業				システムの検討	システム構築 説明開始 事業3-①と連携。	継続	継続
事業6-②: Wi-Fi等の通信環境の整備事業					システムの検討・構築 利用開始 事業3-①と連動	継続	継続

目標④：来訪者消費金額（課題2,3関連、取組強化事項4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

[考え方] コロナ前の2019年とコロナ禍の2021年では売上額及び、客数は大きく減少したが客単価は余り下がっていない。観光客は永平寺に目的をもって来ており、結果として売店の客単価が下がっていないと推測する。

客単価の高いオリジナル商品（お土産や喫茶・食事）や文化観光ツアーの開発が進み、品揃えが充実すれば新たな収益確保につながると考えた。特に外国人観光客の客単価は高く、外国人観光客数が回復し増加すると客単価も伸びると考えて設定した。

2019年、2021年の実績は、大本山永平寺の売店の消費単価。

[把握方法] 大本山永平寺の売店、門前の飲食店舗と第二期禅の里事業で株式会社輝峰が誘致する店舗の売上と客数を集計して把握する。

年度	実績		目標				
	2019年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
消費単価(円)	2,589	2,260	2,300	3,000	4,000	4,500	5,000
事業4-①: オリジナル・メニューの 共同開発事業			商品企画	商品開発及び商品販売	継続	継続	継続

5. 目標の達成状況の評価

福井県観光連盟（DMO）と禅の里まちづくり協議会にて、令和4年度から年度毎に来訪者へのアンケート調査を実施するほか、禅の里まちづくり協議会会員等へのヒアリング調査にて課題の抽出を行い、改善策を纏め、大本山永平寺や会員と共に目標達成に向けたPDCAサイクルを実践し改善していく。

特に、北陸新幹線福井敦賀延伸開業後の令和6年度の来訪者数によって事業効果の検証を行い、令和7年度以降の事業計画の見直しを行う。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

■文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

- ・大本山永平寺において観光客には葉を配布し、参拝の前に雲水が伽藍についての説明や、参拝の仕方についての説明を行っている。
- ・大本山永平寺の朝課(早朝の法要)に参列する一般観光客・宿泊者に対し、朝課の前に僧侶が法話を行っている。
- ・各建物には、建物の説明を記した看板を設置している。



[永平寺僧堂の建物の説明を記した看板(英語併記)]

■情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- ・永平寺のホームページにて、参拝の案内、行事、山内点描、聴講・講演会の案内等を行っている。映像コンテンツは無い。

<https://daihonzan-eiheiji.com/>

■外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介

(施行規則第1条第1項第3号)

- ・永平寺において英語・中国語・台湾語・韓国語の葉を用意し、建物の説明を記した看板には英語併記を行っている。
- ・永平寺のホームページでは英語、中国語に対応している。
- ・英語が話せる僧侶がいる時は、外国人に対して特別に対応している。

Eiheiji

Eiheiji, "The Temple of Eternal Peace", is one of Soto Zen's two head temples. It is located deep in the mountains near the rugged west coast of Japan, not far from Fukui City.

Dogen Zenji, the founder of Eihei-ji, was born in 1200 AD. When he was 23, he went to China and devoted himself to true Zen practice under the strict guidance of Nyojo Zenji at Mt. Tendo. There Nyojo Zenji transmitted to him the true teaching of Shakyamuni Buddha. In 1227 he returned to Japan and began teaching, starting with the composition of the Fukanzazengi (Universal Recommendations for the Practice of Zazen). At first he lived at Kenninji Temple for three years, then founded his first temple, Kosho-Horinji, in Uji, Kyoto.

In 1244, Dogen Zenji and his followers came to Shihi-no-Sho in Echizen (now Fukui Prefecture) to establish deep in the mountains a place for the practice of zazen. He was offered land and other assistance for this by Yoshishige Hatano, a samurai who was one of his most devoted lay followers. Dogen then founded Eihei-ji, where he devoted himself to training his followers in the perfection of Zen practice in every action of daily life.

He died on September 29, 1253, leaving many written works, including the Shobogenzo, Gakudo Yojinshu, and Eihei Shingi.

Dogen Zenji's authentic Zen has been scrupulously observed by his successors. Today, both ordained and lay people all over the world devote themselves wholeheartedly to the practice of shikantaza ("just sitting") that he transmitted.



入門之云水 (僧行堂)

永平寺简介

永平寺是在距今约七百七十年前的宽元二年(一二四四年)由道元禅师创办的坐禅修行之道场。位于三方山环抱的深山幽谷之中，境内殿宇僧舍大小七十多座建筑错落有致，纵横潇洒。

开创永平寺的道元禅师，正治二年(一二〇〇年)出生于京都，十四岁时于比睿山出家，廿四岁那年的春天远往中国天童山，从如净禅师受学，严格修行，传承释迦佛“坐禅”之正确佛教教义期返回日本。

初始在京都创办道场，宽元元年(一二四三年)应波多野重公之邀，移至越前国(现福井县)创办了永平寺。

永平寺现作为曹洞宗的总寺院，成为培养僧才，弘扬佛法 and 檀越信士听闻佛法清静心灵的信仰之源。

英語版

中国語版



入門之流水(修行僧)

永平寺簡介

永平寺是在距今約七百七十年前的寬元二年(一二四四年)喇道元禪師創辦的坐禪修行之道場。位於三方山環抱的深山幽谷之中，境內殿宇僧舍大小七十多座建築錯落有致，縱橫瀟灑。

開創永平寺的道元禪師，正治二年(一二〇〇年)出生於京都，十四歲時於比叡山出家，廿四歲那年的春天遠往中國天童山，從如淨禪師受學，嚴格修行，傳承釋迦佛「坐禪」之正確佛教教義後返回日本。

初始在京都創辦道場，寬元元年(一二四三年)應波多野美重公之邀，移至越前國(現福井縣)創辦了永平寺。

永平寺現作為曹洞宗的總寺院，成為培養僧才，弘揚佛法和權越信士聽聞佛法清淨心靈的信仰之源。



입문한 은수승(雲水僧) [수행승]

에이헤이지(永平寺)……

에이헤이지(永平寺)는, 지금으로부터 약760년전, 1244년 도우겐(道元)선사에 의해 열려진 좌선수행의 도장입니다. 경내는 삼방(三方)이 산(山)으로 둘러싸여있고, 심산유곡에 크고 작은 70여채의 건물이 늘어 서 있습니다.

에이헤이지를 연 도우겐(道元)선사(禪師)는 1200년에 교토(京都)에서 태어나, 14세에 히에이산(比叡山)에서 출가하고, 24세가되던해 봄, 중국(中國)으로 건너가 천동산(天童山)의 여정선사(如淨禪師)에 의해 열한 수행을 받았으며, 석가로부터 전해져온 [좌선]이라고 하는 정통 석가의 가르침을 받아들여 일본에 돌아왔습니다.

처음에 교토(京都)에 도장을 세웠으나, 1243년, 하타노요시시게 (波多野美重)공의 요청으로 에치젠(越前, 현재 후쿠이현, 福井縣)으로 옮겨와 에이헤이지를 열었던 것입니다.

현재는 소우토우슈우(曹洞宗)의大本山(大本山)으로서 승려의 육성과, 단신도(檀信徒)의 신앙의 근원이 되고 있습니다.

台灣語版

[大本山永平寺で外国人観光客に配布している葉]

韓國語版

6-1-2. 本計画における取組

■文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

□「禪の里文化観光ストーリー・プログラム」の造成 事業1-①

一般観光客が「禪文化」に興味を持ってもらうキッカケとなる様に、そして、段階的に中級者・上級者へと「禪文化」の知識が深まる様にストーリーを創る。

そのストーリーに基づき、宿泊・食事・朝課・坐禅・法話・映像コンテンツ・境内参拝等を総合的に深く体験をして貰える教育プログラムと日常での体験プログラムを体系的に造成する。

□交流法話会実施 事業1-②

既に行っている分かり易い法話以外に、中級者、上級者に対して知識度合や関心度合に合わせて、僧侶による交流法話会を行う。

□映像コンテンツの制作及び、配信 事業2-①

観光客が興味のある処から「禪文化」を学べるようにテーマ毎にドキュメンタリーを制作する。親禪の宿柏樹関及び、第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設、永平寺の瑠璃聖宝閣(宝物館)、七堂伽藍前の吉祥閣や傘松閣に配信し放映する。

■情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

□ICTを活用した永平寺山内の周遊促進 事業3-②

山内各地、建物の文化資源案内看板にQRコードを設置し、文化資源の詳細情報を観光客のスマホにWeb連動で動画コンテンツを配信する。ナレーションは日本語の他に、観光庁 How to 多言語解説文整備に基づき、英語・中国語・韓国語に多言語化する。

□Wi-Fi等の通信環境の整備 事業6-②

文化資源の詳細情報を観光客のスマホにWeb連動で表示させる為にWi-Fi等の通信環境の整備を行う。

■外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

□映像コンテンツの多言語化 事業2-③

観光庁 How to 多言語解説文整備に基づき、映像コンテンツ及び ICT を活用した詳細情報のナレーションを英語・中国語・韓国語へ多言語化する。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

- ・第一期門前再生事業として平成28～31年にかけて福井県が永平寺川の石積護岸改修工事、永平寺が親禪の宿柏樹園を建設し、協力して禪の里の整備にあたってきた。また、福井県は第二期門前再生事業についても、永平寺に協力している。
- ・福井県は福井市・あわら市・大野市・永平寺町を主導し、永平寺と令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業に向けて観光誘客について協議会を開催し、各行政の事業と禪の里事業との連携・協力について調整を行っている。
- ・福井県観光連盟(DMO)と門前観光協会(門前の商店の団体)とは、令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業に向けて門前の誘客についての課題整理を行い、解決に向けて門前の住民等が参加した禪の里まちづくり協議会を設立した。
- ・福井県観光連盟(DMO)は、年数回、福井県内17市町観光課および観光協会との観光ネットワーク会議を行いながら、令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業に向けて、各行政で推進している観光施策について意見交換を行い、協力体制を構築している。また、稼ぐ観光を目指して、観光地域づくりマネジャーやスーパーバイザーを設置して、県内17市町の観光関連団体と連携しながら、県内地域DMOや文化観光事業者を含むプレイヤー支援を積極的に展開している。

6-2-2. 本計画における取組

- ・福井県観光連盟(DMO)は、禪の里まちづくり協議会の顧問として活動へのアドバイスを行う。具体的には、年1回開催の禪の里まちづくり協議会総会において事業の方針策定並びにKPIの設定を行うための役員会へのアドバイス・協力や、その方針踏まえ、役員会において、目標達成に向けたPDCAサイクルを実践していく活動へのアドバイス・協力を行う。
- ・福井県にとって永平寺は福井県全体のインバウンドの集客ポイントであり、大本山永平寺及び、禪の里まちづくり協議会に協力して禪の里の整備を行いながら、併せて禪の里周辺の宿泊、飲食やコンテンツとの連携を図っていくことで、福井県全体での滞在時間を延ばし稼ぐ観光地域づくりを目指す。
- ・福井県、福井県観光連盟(DMO)は、「禅文化」や福井の伝統文化を深く理解してもらう為の「禅文化」や伝統工芸文化をテーマとした禪の里周辺での文化観光ツアーを開発する為のサポートを行う。具体的には、文化観光に関するマーケティング調査を行うほか、禪の里周辺での文化観光を提供する事業者との連携及び、調整を行いながら、商品開発・実証実験のサポートを行う。

□ZENによる誘客促進事業 事業番号5-①

福井県公式ホームページ、公式 SNS 等や福井県観光連盟独自の CRM によるファンづくり活動において「ZEN」に関連した情報を随時発信する。また、「ZEN」に関連した体験プログラム等の販売支援を行う。

- ・福井県、福井県観光連盟(DMO)は、令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業に向けてJR等のキャンペーンへの禅の里の広報活動の支援を行うほか、旅行会社との商談会等での販売促進の支援を行う。
- ・福井県、福井県観光連盟(DMO)は、大本山永平寺や禅の里まちづくり協議会のデータ収集や分析と合わせ、禅の里周辺の観光地を含めた福井県全体の文化観光の推進に関するデータの収集と分析を行い、禅の里における文化観光ツアーへのフィードバックを行う。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・株式会社輝峰との連携

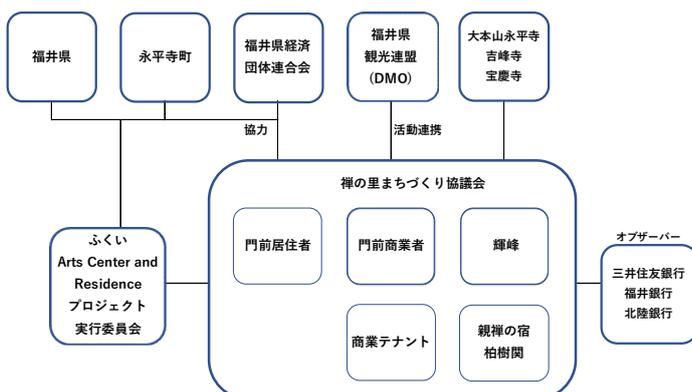
禅の里事業の推進母体として令和2年12月に設立された。令和3年より三井住友銀行・福井銀行・北陸銀行は、第二期門前再生事業における「禅文化」と親和性のあるテナント誘致や事業計画の支援の為、オブザーバーとして計画段階から参画しており、株式会社輝峰は各銀行の協力を得ながら、令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業に向けて、門前再構築プロジェクトで整備した参道対岸部分に第二期門前再生事業として店舗、宿泊施設の計画推進及び、商業テナントの選定、宿泊施設の運営者の選定作業を行っている。

・禅の里まちづくり協議会との連携

平成23年(2011)に禅の里まちづくり実行委員会において、文化庁の補助を受け、ワークショップにて現状分析し、講演会を開催し、門前のまちづくりについての研修を行い、門前まちづくりの機運醸成を行った。

平成27年(2015)に永平寺門前まちづくり委員会において文化庁の補助を受け、ワークショップを行い門前のまちづくり基本構想を纏めた。

前2回の委員会の成果である基本構想を基に大本山永平寺を核とし、株式会社輝峰、門前観光協会(門前商業者)、門前居住者等が会員の禅の里まちづくり協議会が新たに令和4年6月に発足し、第二期門前再生事業で行う建物等の整備と、禅の里の文化観光拠点機能強化を実行・推進する体制を構築した。禅の里まちづくり協議会には福井県、永平寺町、福井県経済団体連合会が協力すると共に、福井県観光連盟(DMO)が活動連携し、オブザーバーとして三井住友銀行、福井銀行、北陸銀行が参加する。また、禅の里まちづくり協議会は禅とアートが融合したイベント開催について、ふくい Arts Center and Residence プロジェクト実行委員会と連携・協力する。



・ふくいArts Center and Residence プロジェクト実行委員会との連携

2021年、地域住民の外国人アーティスト、アートに対する理解促進、地域の魅力の再発見を目的とし、観光・商工団体や行政(福井県・永平寺町)、民間企業による実行委員会を組織し、試行的なアーティスト・イン・レジデンスを実施した。永平寺町の四季の森複合施設 旧傘松閣(絵天井広間)での展示会には、県内外からアートに関心の高い人々が来訪した。また、この事業を通じて、外国人アーティストの禅に対する関心の高さを確認することができた。

・第一回のふくいArts Center and Residence プロジェクトの実施内容

- ・写真家エバレット・ケネディ・ブラウン氏と松岡のまちなみ撮影、若き職人モレル・ドリアン氏との学ぶ和菓子づくり、造形作家キム・ミュンヒ氏から学ぶピースマスクづくりのワーク・ショップの開催。
- ・永平寺町の四季の森複合施設 旧傘松閣(絵天井広間)での17人、13か国のアーティストが「禅」を表現した作品を発表する展覧会の開催。
- ・展覧会の開催に合わせたハープ演奏会、お茶会、永平寺特産品の販売会の開催。
- ・(一社)アジア・ソサイエティ・ジャパン・センター(アート委員会)との交流会の開催。
- ・美術アプリ「Art Sticker」を使った展覧会の発信。

6-3-2. 本計画における取組

■観光客との交流、福井の伝統文化との連携、飲食・物販サービス向上等、文化観光の推進に関する事業の企画と実施

- ・株式会社輝峰は、第二期門前再生事業を令和6年春の北陸新幹線福井敦賀延伸開業までに行う。完成は2030年を目標としている。(参考資料の第二期門前再生事業全体計画図を参照のこと)
また、禅の里でしか手に入らない「禅文化」や福井の伝統文化と関連する品を、第二期門前再生事業で誘致するテナントと共同して開発する。

□禅コンシェルジェの育成 事業1-③

永平寺の文化的価値・魅力を正しく観光客に伝える為には、まずは門前の住民、店舗・親禅の宿柏樹関・第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設の従業員等の説明者に正しい知識を持ってもらい、分かり易く伝える教育が必要であり、禅の里共通の教育プログラムの開発と認定制度を整備し育成を行う。

□宿泊施設へのコンテンツ提供 事業2-②

親禅の宿柏樹関及び、第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設に滞在中、「禅文化」について何時でも学べるように映像コンテンツを提供する。宿泊者に、朝課(早朝の法要)参列・参禅・写経と合わせ、リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリット型の体験を提供する。

□案内サインによる周遊促進 事業3-①

現状の看板の調査を行い、分かり易いサイン計画を立案する。

□案内サイン設置 事業6-①

景観に配慮し分かり易く統一されたデザイン、環境にも配慮した材質の文化観光資源の内容を説明した看板、誘導サイン等を禅の里に設置する。

□上質な文化観光ツアーの開発の為の実証実験 事業2-④

禪の里周辺の一時間圏内にある福井の伝統工芸品の産地及び、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡、重要文化財の丸岡城等と連携して、商品企画・マーケティング・実証実験・アンケート調査を行い、文化観光ツアーの開発を行う。

□オリジナル・メニューの共同開発 事業4-①

門前飲食店では、精進料理や福井の伝統料理をもとにオリジナル・メニューを開発する。

□禪とアートが融合したイベント開催 事業1-④

禪の里の新しい誘客コンテンツとして、外国人に人気の高い世界的アーティストの招聘も視野に入れ、禪とアートが融合したイベントを継続して定期的で開催する。

禪の里でアーティストの公開制作や展示・ワークショップ等を行い、滞在するアーティストと地域住民の交流を通じて地域資源の再発見と磨き上げを行うと共に、アーティストと観光客の交流を通して禅文化に広く興味を持ってもらう。さらに、国内外にアート・イベントの情報を発信する。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	「禪の里文化観光ストーリー・プログラム」の造成
事業内容	先ずは、一般の観光客に対して「禅文化」に興味を持ってもらえるようなテーマを整理し分かり易いストーリーを創る。そのストーリーに添って各事業のプログラムと実施内容を決める。ストーリーは各事業が良く連携し、相乗効果を出せるように構築する。次に中級者用・上級者用のストーリーとプログラムを同様の手順で作成する。また、年度ごとに事業の成果を検証し、ストーリーとプログラムの見直しを行う。
実施主体	株式会社輝峰
実施時期	2022 年度に初級者編を作成。2023 年度に中級者編を作成、初級編の評価・検証を行う。2024 年度に上級者編を作成、初級・中級編の評価・検証を行う。2025 年度に初級・中級・上級編の評価・検証を行い、その後、継続する。
継続見込	大本山永平寺拝観料等により継続
アウトプット 目標	2022 年度に初級編企画書を作成。2023 年度に中級編企画書を作成。2024 年度に上級編企画書を作成。その後、各事業の成果を検証し、毎年度、企画書を改訂する。
必要資金 調達方法	24 百万円 (内訳：8 百万円 (自己資金) 16 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁))

(事業番号 1-②)

事業名	交流法話会実施
事業内容	既に永平寺では朝課(早朝の法要)に参列する一般観光客・宿泊者に対して朝課の前に僧侶が分かり易い法話を行っているが、段階的に「禅文化」を深く理解したいと思うリピーター及び、知識富裕層等の宿泊者に対して、知識度合や関心度合に合わせて交流法話会を行う。
実施主体	宗教法人大本山永平寺
実施時期	既に行っている朝課の前の僧侶が行う分かり易い法話は継続。 2022 年度より「禅文化」を深く理解したいリピーター及び、知識富裕層等に対する交流法話会を実施。
継続見込	宿泊料、交流法話会参加費等により継続
アウトプット 目標	既に行っている朝課の前の僧侶が行う法話は継続。 交流法話会は週 1 回。宿泊者の予約により適時、実施する。
必要資金 調達方法	6 百万円(自己資金)

(事業番号 1-③)

事業名	禪コンシェルジェの育成
事業内容	門前住民・従業員等の説明者が永平寺や上質な文化観光ツアー等について正しい知識を持ってもらう事、また、観光客に対しておもてなしの心で接してもらえる様に研修を行う。研修の為に教育プログラムを開発しテキストを作成の上、講習会を行い「禅コンシェルジェ」の認定試験を行う。また、毎年度に新たな情報共有の為に、禅コンシ

	エルジェに対して講習会を行う。インバウンド対策として、英語等でしっかりと説明ができる禅コンシェルジェの育成を行う。
実施主体	禅の里まちづくり協議会 株式会社輝峰
実施時期	2022 年度に育成プログラム開発。2023 年度にテキスト作成し講習会開催後、認定試験を行う。また適時にプログラム、テキスト、認定試験の内容の改訂を行う。
継続見込	禅の里まちづくり協議会会費等により継続
アウトプット 目標	2023 年度から禅コンシェルジェ認定。(年間 10 人) インバウンド対応禅コンシェルジェ(年間 1 人)
必要資金 調達方法	11.4 百万円 (内訳: 3.8 百万円(自己資金) 7.6 百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

(事業番号 1-④)

事業名	禅とアートが融合したイベント開催
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に人気の高い世界的アーティストの招聘も視野に入れ、誘客コンテンツとなるアート・イベントを開催する。 ・福井県文化振興事業団芸術文化アドバイザー窪田研二氏(現代アート、インデペンデント・キュレーター)を外部アドバイザーとして設置した。 ・地域住民や地元大学生、地元企業等と協働し、禅に興味関心の高いアーティストの受け入れから公開制作、展示等を実施する。 ・アートやアーティストに対する地域理解を深めるとともに、アーティストの新しい視点により地域資源の魅力再発見につなげ、地域住民の創造的な活動を促し、地域の文化力向上、賑わいの創出につなげる。 ・アートに関心の高い新たな観光客をターゲットとし国内外に情報を発信する。
実施主体	ふくい Arts Center and Residence プロジェクト実行委員会 (禅の里まちづくり協議会と連携実施)
実施時期	2022 年度 アーティスト公募・門前などでの滞在、「禅文化」体験、公開制作・ワークショップ等 2023 年度 滞在アーティストによる展示、新たなアーティスト公募・滞在、「禅文化」体験、公開制作・ワークショップ・展示 2024~26 年度 世界的アーティストの招聘展示、新たなアーティスト公募・滞在、「禅文化」体験、公開制作・ワークショップ・展示
継続見込	イベント収入等により継続
アウトプット 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的アーティストの招聘(1名程度)・展示や交流会の開催 ・毎年、アーティストを禅の里等に受入れ(5名、30日程度滞在) ・永平寺町内でのアート活動(公開制作・ワークショップ、展示)(5名各1回以上) ・地域住民とアーティストとの交流会による地域資源の再発見と磨き上げ(5名各1回以上)
必要資金 調達方法	54 百万円 (内訳: 18 百万円(自己資金) 36 百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号 2-①)

事業名	映像コンテンツの制作及び、配信
事業内容	一般の観光客に対して「禅文化」に興味を持ってもらえる様に、道元禅師の生涯・教え、永平寺の成立、文化財、坐禅・作務、精進料理、伽藍の意味・建物の価値、永平寺大工、永平寺の四季の8テーマを設定し約20~30分のドキュメンタリーとして製作する。映像コンテンツは、ZENによる誘客促進事業等の旅マエの動機づけ、永平寺内での放映、親禅の宿柏樹関・第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設への配信、旅アトで余韻を楽しめるよう色々な使い方が出来るように制作する。また、事業2-③の映像コンテンツの多言語を前提とした映像の制作を行う。
実施主体	株式会社輝峰
実施時期	2022年度に映像コンテンツの企画立案を行う。 2023~26年度に年2本、合計8本の映像コンテンツを制作する。
継続見込	大本山永平寺拝観料等により継続 将来的には瑠璃聖宝閣の有料化による収入により継続
アウトプット 目標	2022年度に映像コンテンツの企画書作成。 2023~26年度に年2本、合計8本の映像コンテンツを配信する。 永平寺瑠璃聖宝閣、吉祥閣、傘松閣の三か所、親禅の宿柏樹関、第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設で上映する。
必要資金 調達方法	60百万円 (内訳：20百万円(自己資金) 40百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

(事業番号 2-②)

事業名	宿泊施設への映像コンテンツ提供
事業内容	親禅の宿柏樹関及び、第二期門前再生で新たに建設する宿泊施設に滞在中、何時でも「禅文化」について学べるように映像コンテンツを提供する。宿泊者に、雲水の修行の疑似体験が出来る永平寺で毎日行われる朝課(早朝の法要)参列と法話、坐禅体験、写経と合わせ、リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリット型の「禅文化」の体験を提供する。
実施主体	株式会社輝峰
実施時期	2022年度にデジタル・コンテンツ提供システム構築。 2023年度よりデジタル・コンテンツの順次、配信開始。
継続見込	宿泊料等により継続
アウトプット 目標	2023年度より運用開始する。 親禅の宿柏樹関、第二期門前再生事業で新たに建設する宿泊施設のロビー及び、宿泊室に配信する。
必要資金 調達方法	4.2百万円 (内訳：1.4百万円(自己資金) 2.8百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

(事業番号2-③)

事業名	映像コンテンツの多言語化
事業内容	観光庁 How to 多言語解説文整備に基づき、事業2-①で制作した映像コンテンツ及び、事業3-②の詳細情報のナレーションを英語・中国語・韓国語に多言語化する。 また、海外からのWebアクセスに対して、現在ある大本山永平寺のホームページと、福井県公式観光サイトのふくいドットコム、永平寺町公式観光サイトのZENTABI Naviとのリンク等も図り、観光客の来訪の動機づけを行い、インバウンド対策を強化する。
実施主体	株式会社輝峰
実施時期	2023年度より映像コンテンツが完成次第、順次実施する。
継続見込	大本山永平寺拝観料、宿泊料等により継続
アウトプット 目標	2023年度から多言語の映像コンテンツを2本制作し、合計8本を順次配信する。 2024年度から14か所で詳細情報の動画を多言語化して、配信する。
必要資金 調達方法	24百万円 (内訳：8百万円(自己資金) 16百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

(事業番号2-④)

事業名	上質な文化観光ツアーの開発の為の実証実験
事業内容	令和3年11月から、JR・旅行会社・県内市町・福井県が連携し、首都圏を主なターゲットとした旅行商品造成につなげる「福井県観光開発プロジェクト」を進めている。この「福井県観光開発プロジェクト」の一環として福井県観光連盟(DMO)と連携し禅の里から各観光地へ観光客を送客するツアー計画を立てる。 ツアー先は、禅の里周辺の一時間圏内にある経済産業大臣指定伝統的工芸品である越前和紙・越前打ち刃物・越前漆器・越前焼や世界的なシュアを誇る鯖江のめがね等の日本を代表する産地及や、日本最大の戦国城下町跡・特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡、江戸時代以前に築城された現存十二天守で唯一北陸地方に残る重要文化財の丸岡城、禅とアートが融合したイベント等とする。 二次交通については、JR福井駅から永平寺までの直通バスやえちぜん鉄道、永平寺・丸岡城間の直通バスや永平寺・一乗谷朝倉氏遺跡間バスがあるが、県内交通事業者(バス、タクシー、レンタカー等)と今後協議のうえ、検討・実施する。 ツアー客は宿泊客を対象とし、訪問先での体験、移動手段、一日・半日コース、料金設定等色々なツアーを企画しマーケティングを行った上で商品開発し、実証実験を行う。ツアー参加後にアンケート調査を行い、長期滞在時の特別な体験として商品化を行う。
実施主体	株式会社輝峰 福井県観光連盟(DMO) 禅の里まちづくり協議会
実施時期	2022年度にツアー企画実施。 2023年度にマーケティング、ツアー商品開発、実証実験開始。
継続見込	ツアー参加料等により継続
アウトプット 目標	2022年度より企画書作成。 2023年度にマーケティング及び、ツアー商品開発(2本)実証実験後、アンケート調査。 2024~2026年度に実証実験の検証を行いながら、ツアー商品(2本)を開発。
必要資金 調達方法	18百万円 (内訳：6百万円(自己資金) 12百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号 3-①)

事業名	案内サインによる周遊促進
事業内容	禅の里の現状調査を行い、名称看板、誘導サイン、説明板の機能を整理し、分かり易い内容表示及び、景観および環境にも配慮したデザインや材質の選定も含めたサイン計画を立案する。
実施主体	株式会社輝峰 禅の里まちづくり協議会
実施時期	2022 年度に既存看板、サインの調査実施。サイン計画立案。
継続見込	大本山永平寺拝観料、禅の里まちづくり協議会会費等により継続
アウトプット 目標	2022 年度の既存サイン調査書とサイン計画図作成。
必要資金 調達方法	12 百万円 (内訳：4 百万円 (自己資金) 8 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁))

(事業番号 3-②)

事業名	ICT を活用した永平寺山内の周遊促進
事業内容	七堂伽藍の各建物等や境内の見どころ 14 か所について、詳細情報を観光客のスマホで閲覧できる動画コンテンツを制作する。 ナレーションは日本語の他に英語、中国語、韓国語に多言語化する。
実施主体	株式会社輝峰
実施時期	2023 年度にコンテンツ制作を行う。
継続見込	大本山永平寺拝観料等により継続
アウトプット 目標	2024 年度より運用開始する。
必要資金 調達方法	1.95 百万円 (内訳：0.65 百万円 (自己資金) 1.3 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁))

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号 4-①)

事業名	オリジナル・メニューの共同開発
事業内容	門前飲食店では、永平寺の典座老師(総料理長)のレシピにもとづく精進料理や地元の食材を使った伝統料理をもとにしてオリジナルな喫茶・食事メニューの開発を行い、禅の里での休憩場所の提供と共に滞在時間の延長を図る。
実施主体	株式会社輝峰 福井県観光連盟(DMO) 禅の里まちづくり協議会
実施時期	2022 年度に商品企画を実施。 2023 年度から商品開発と販売開始。
継続見込	飲食代収入等により継続
アウトプット 目標	2022 年度より商品の企画開発を行い、順次販売開始
必要資金 調達方法	5.7 百万円 (内訳：1.9 百万円 (自己資金) 3.8 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁))

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号 5-①)

事業名	ZENによる誘客促進事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県公式観光ホームページ「ふくいドットコム」や公式 SNS 等で「ZEN」に関連した情報発信(随時) ・福井県観光連盟(DMO)独自の CRM によるファンづくり活動(随時)において、「ZEN」に関連した情報発信を行っていく ・体験プログラムの予約決済プラットフォームの提供開始し、「ZEN」に関連した体験プログラム等の販売支援
実施主体	福井県観光連盟(DMO)
実施時期	2022年4月 県全域でアンケートキャンペーン開始 2022年7月 アンケート時に取得したメールアドレスへの情報発信開始(CRM)以後、随時情報発信 (メールアドレス数 3,483件 2022年6月21日現在) 2022年8月 予約決済プラットフォームでの、「ZEN」に関連した体験プログラム等の販売支援
継続見込	季節毎や観光ニーズに沿った情報発信および販売支援を継続
アウトプット目標	「ZEN」に関連した体験プログラムの申し込み数 30件
必要資金調達方法	ふくいドットコム運営費 6.4百万円(福井県観光連盟(DMO)事業) アンケートキャンペーン運営費 13.2百万円(福井県観光連盟(DMO)事業) 予約決済プラットフォーム構築費 1.4百万円(福井県観光連盟(DMO)事業)

7-1-6. 7-1-1~7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号 6-①)

事業名	案内サイン設置事業
事業内容	案内サインによる周遊促進 事業3-①で立案したサイン計画図に基づき、サインの制作及び、設置を行う。また、ICTを活用した永平寺山内の周遊促進事業 事業3-②の詳細情報を表示させるQRコードを説明板に設置する。
実施主体	株式会社輝峰 禅の里まちづくり協議会
実施時期	2023年度にサインの制作及び、設置。
継続見込	大本山永平寺拝観料、禅の里まちづくり協議会会費等により継続
アウトプット目標	2023年度にサインの設置。
必要資金調達方法	14.4百万円 (内訳: 4.8百万円(自己資金) 9.6百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

(事業番号6-②)

事業名	Wi-Fi等の通信環境の整備
事業内容	ICTを活用した永平寺山内の周遊促進 事業2-②の為、永平寺境内にWi-Fi等の通信環境の整備を行う。
実施主体	株式会社輝峰
実施時期	2023年度にシステムの検討を実施。 2023年度にWi-Fiシステムの構築し、利用開始。
継続見込	大本山永平寺拝観料等により継続
アウトプット 目標	2024年度より運用開始。
必要資金 調達方法	15.6百万円 (内訳: 5.2百万円(自己資金) 10.4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁))

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条 (法の特例)
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和4年度	65.1百万円	事業番号1-1	6百万円	2百万円(自己資金) 4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号1-2	1.2百万円	1.2百万円(自己資金)
		事業番号1-3	3百万円	1百万円(自己資金) 2百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号1-4	6百万円	2百万円(自己資金) 4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-1	6百万円	2百万円(自己資金) 4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-2	3百万円	1百万円(自己資金) 2百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-3	0百万円	0百万円(自己資金) 0百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-4	6百万円	2百万円(自己資金) 4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号3-1	12百万円	4百万円(自己資金) 8百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号3-2	0百万円	0百万円(自己資金) 0百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号4-1	0.9百万円	0.3百万円(自己資金) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号5-1	21百万円	21百万円(福井県負担)
		事業番号6-1	0百万円	0百万円(自己資金) 0百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号6-2	0百万円	0百万円(自己資金) 0百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
令和5年度	62.7百万円	事業番号1-1	6百万円	2百万円(自己資金) 4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号1-2	1.2百万円	1.2百万円(自己資金)
		事業番号1-3	3百万円	1百万円(自己資金) 2百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号1-4	12百万円	4百万円(自己資金) 8百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-1	13.5百万円	4.5百万円(自己資金) 9百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-2	0.3百万円	0.1百万円(自己資金) 0.2百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-3	6百万円	2百万円(自己資金) 4百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)
		事業番号2-4	3百万円	1百万円(自己資金) 2百万円(文化芸術振興費補助金)(文化庁)

		事業番号 3-1	0 百万円	0 百万円 (自己資金)	0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 3-2	1.5 百万円	0.5 百万円 (自己資金)	1 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 4-1	1.8 百万円	0.6 百万円 (自己資金)	1.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 6-1	14.4 百万円	4.8 百万円 (自己資金)	9.6 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 6-2	0 百万円	0 百万円 (自己資金)	0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
令和 6 年度	60.75 百万円	事業番号 1-1	6 百万円	2 百万円 (自己資金)	4 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 1-2	1.2 百万円	1.2 百万円 (自己資金)	
		事業番号 1-3	1.8 百万円	0.6 百万円 (自己資金)	1.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 1-4	12 百万円	4 百万円 (自己資金)	8 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 2-1	13.5 百万円	4.5 百万円 (自己資金)	9 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 2-2	0.3 百万円	0.1 百万円 (自己資金)	0.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 2-3	6 百万円	2 百万円 (自己資金)	4 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 2-4	3 百万円	1 百万円 (自己資金)	2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 3-1	0 百万円	0 百万円 (自己資金)	0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 3-2	0.15 百万円	0.05 百万円 (自己資金)	0.1 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 4-1	1.8 百万円	0.6 百万円 (自己資金)	1.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 6-1	0 百万円	0 百万円 (自己資金)	0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		事業番号 6-2	15 百万円	5 百万円 (自己資金)	10 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
		令和 7 年度	41.85 百万円	事業番号 1-1	3 百万円
事業番号 1-2	1.2 百万円			1.2 百万円 (自己資金)	
事業番号 1-3	1.8 百万円			0.6 百万円 (自己資金)	1.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
事業番号 1-4	12 百万円			4 百万円 (自己資金)	8 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
事業番号 2-1	13.5 百万円			4.5 百万円 (自己資金)	9 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
事業番号 2-2	0.3 百万円			0.1 百万円 (自己資金)	0.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
事業番号 2-3	6 百万円			2 百万円 (自己資金)	4 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
事業番号 2-4	3 百万円			1 百万円 (自己資金)	2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)
事業番号 3-1	0 百万円			0 百万円 (自己資金)	0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)

		事業番号 3-2	0.15 百万円	0.05 百万円 (自己資金) 0.1 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 4-1	0.6 百万円	0.2 百万円 (自己資金) 0.4 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 6-1	0 百万円	0 百万円 (自己資金) 0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 6-2	0.3 百万円	0.1 百万円 (自己資金) 0.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
令和 8 年度	41.85 百万円	事業番号 1-1	3 百万円	1 百万円 (自己資金) 2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 1-2	1.2 百万円	1.2 百万円 (自己資金)		
		事業番号 1-3	1.8 百万円	0.6 百万円 (自己資金) 1.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 1-4	12 百万円	4 百万円 (自己資金) 8 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 2-1	13.5 百万円	4.5 百万円 (自己資金) 9 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 2-2	0.3 百万円	0.1 百万円 (自己資金) 0.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 2-3	6 百万円	2 百万円 (自己資金) 4 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 2-4	3 百万円	1 百万円 (自己資金) 2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 3-1	0 百万円	0 百万円 (自己資金) 0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 3-2	0.15 百万円	0.05 百万円 (自己資金) 0.1 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 4-1	0.6 百万円	0.2 百万円 (自己資金) 0.4 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 6-1	0 百万円	0 百万円 (自己資金) 0 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		事業番号 6-2	0.3 百万円	0.1 百万円 (自己資金) 0.2 百万円 (文化芸術振興費補助金) (文化庁)		
		合計	272.25 百万円			

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

令和4年度～令和8年度(5年計画)